

## 生産性の高い決断・判断力の磨き方

どちらにすべきか迷って決断できない、時間に余裕があるのに新しいことが出来ない、という場面はないですか？業務を効率化するにあたり、試行錯誤している時間は重要ですが、決めずに滞留している時間は本当に無駄です。まずは、決断・判断し、試してみて違えば、修正すればよいですが、ただ決めていない・判断していない時間は、何も前には進みません。今回は業務を効率化していく上で必要な決断・判断力を高める方法をご紹介します。

---

### 【1, 決断・判断するための環境を作る】

組織の中で正しい決断・判断をするには、誤った決断・判断をしない環境を作ることが重要です。

では、どのような環境をつくるべきか、以下の3つの質問を考えてみてください。

- 「ステークホルダーは問題を理解していますか？」  
関わるステークホルダーが、問題の背景や経緯、根拠や考え方を十分に理解しているかです。問題の理解が不足していると、あなたの決断・判断に非建設的な反対を受けてしまうことがあります。手間はかかりますが、事前にじっくり説明することで結果的には効率的です。
- 「利害関係者に漏れないか？」  
あなたが行う決断・判断によって、収入が減る、組織内でのパワーバランスが変わるなど、影響を受ける人を全員認識すること。漏れていると、後で想定外のトラブルが起こりかねません。
- 「ステークホルダーの本音が効いているか？」  
決断・判断に関わる意見交換では、参加者全員が本音で語り合っているかを十分にチェックする必要があります。感情や、言い難い心配事まで含めて情報収集しておくことで、どこかで滞留することなく、円滑な決断・判断が行えます。

---

### 【2, 選択肢をたくさん増やす】

正しい決断・判断には多くの選択肢から選ぶ必要があります。この「選択肢」をどれだけ多く増やすことができるかは、決断・判断の質を高め、結果的に手戻りなく生産性を高めます。

- 最も非効率な決断・判断  
例えば問題解決への判断をする際に、A・B・C 3つの選択肢があり、Cがベストな選択肢だとしましょう。ところが、あなたはAとBで迷ってしまっています。この場合、A・Bいずれの選択肢を選んでも正しい問題解決には至りません。また、このような場合は、A・Bともに決め手に欠く選択肢となるため判断が出来ず、最後はイヤと決めることとなります。無駄な時間をかけて、正しくない判断を行う、最も非効率な結果を招きます。
- 最低 20 個は考える  
大抵の場合、2-3 つ程度の選択肢で決断・判断することが多いのではないのでしょうか。おススメは最低 20 個、出来れば 30 個の選択肢を考えて下さい。まずは思いのまま 30 個考え、次

に 5 個まで絞り込みます。絞り込む際は、これまでの経験や知識で上手く行きそうな選択肢を 3 つ、少し変わった選択肢を 2 つの合計 5 つを選んでください。私たちの決断・判断は、常にバイアスに捉われています。これまでよりも効果的・効率的な決断・判断をする際は、このバイアスを出来る限り減らす必要があります。

---

#### 【選択肢を比較する】

複数の選択肢から決断・判断するとき、それぞれの選択肢を十分に比較しましょう。比較が上手くなると、誤った選択肢を選ばなくなります。3 つの観点で星取表をつけていくイメージで実行してみてください。

- リスク：どちらを選ぶと、どのようなリスクがあるか漏れなく考える
- 結果予測：起こりえる結果をなるべく数字で予測する
- 実現可能性：実現に向けた障害を想定し、具体的な実現可能性を考える

---

#### 【ストレスによる決断・判断力低下を防ぐ】

決断・判断は無意識な大きなストレスとなり、決断・判断力を大きく下げてしまいます。ルール化してしまい、いちいち考えないことが効率的・効果的です。

- 決断・判断にストレスは大敵  
多くの人は、1 日に約 70 個の決断・判断を行っています。いかに高い決断・判断力があっても、ストレスを抱えるとその能力は落ち、誤った判断をしかねません。特に、感情が入る決断・判断は、より大きなストレスとなります。可能な限り、客観的に決断・判断することが大切です。
- ルール（＝ツール）をたくさん持つ  
自分の決めたルールや、客観的に決断・判断できるツールをたくさん持っておき、一度当てはめることが必要です。しかし、人は論理だけでは決断・判断しません、感情が決断・判断に大きく影響します。客観性と感情、いずれも理解した上で、決断・判断することが大切です。

---

#### 【行動を起こす決断・判断】

どんなに論理的に正しい決断・判断でも、感情が入らなければ行動には移りません。選んだ選択肢に一定の根拠・妥当性があり、更に、自分にとって意味のあるものになっているかが重要です。

- 正しいが実行しない決断・判断  
これが大事で自分の役に立つと分かっている選択肢はたくさんあります。例えば、英語の学習、健康のための運動・食生活の改善、これが正しいことは誰でも理解しています。しかし、実際に行動に移せない人が多いのは何故でしょうか？
- 決断・判断への動機付け  
正しいが実行されない決断・判断となるのは、自分の中で意味を見出せていないからです。客観的に正しいと理解すると同時に、意味を見出し、感情的に惚れ込めるかどうか行動に移すキーとなります。

---

【周りの人に伝える】

最後は自分の決断・判断を他人に伝え、周囲を動かすこと。これが出来ないと、独りよがりの決断・判断となり、組織の中では全く役に立ちません。上手く周囲に伝え、必要なサポートを受けられる状態を作りましょう。

- 応援してくれる人は絶対必要  
決断・判断を伝え、他人の共感を得てサポートを受けることは、実行していく上で大きなモチベーションになります。誰も共感・サポートしてくれない決断・判断は実行されずにやめてしまいます
  - 何を伝えるか？  
決断・判断の根拠や実現可能性、具体的なプランを、出来る限りストーリーとして伝え、他人の感情を動かしましょう。
-